

巻末資料

大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の評価結果（高等学校教科担当教員の評価）

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されています。このことに照らし、令和7年度大学入学共通テスト（本試験（旧教育課程科目を含む））の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲^{※1}）
- (3) 問題で使用する資料等^{※2}が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定^{※3}がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 地理歴史、公民における『地理総合／歴史総合／公共』及び理科における『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することとしているが、ここでは、その中での出題範囲を指すものである

※2 教科書で扱われていない初見の資料等を扱う場合、資料そのものに対する知識を問うのではなく、資料を活用して高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための題材として扱うことを前提としている

※3 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

（評定値）

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名 (出題範囲名)	『国語』
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、高等学校国語科における基礎的な学習内容の理解や思考力等を問う出題となっている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から出題されており、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材である。
(4)問題の場面設定	3	概ね受験者の学習過程や高等学校における国語科の授業を想定した出題となっており、受験者の日々の学習や学校における授業改善に向けたメッセージ性のあるものとなっている。
(5)問題構成	4	本文や資料等の内容に応じた設問数や選択肢数が設定され、配点や設問形式は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切である。
(7)難易度	4	様々な設問が組み合わされており、全体として難易度は適切である。
(8)得点のちらばり	4	全体として得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、学習指導要領において目指す資質・能力について、その達成の程度を判定する試験問題として適切である。問題作成方針に則して、生徒の学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定等が工夫された出題を期待する。

科目名 (出題範囲名)	『地理総合、地理探究』
----------------	-------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	3	自然環境と生活文化、地域調査、自然環境と自然災害、エネルギーと産業、産業構造の変化に伴う都市の変容、環インド洋地域が出題され、学習指導要領からバランスよく出題されていたが、「持続可能な国土像の探究」については大問として出題する等の工夫を期待したい。
(3)題材	4	初見の資料も多いが、地理の授業で扱われる内容や身に付けた知識・技能や思考力を基に、地理的な見方・考え方を働かせて、考察したり推察したりする問題が多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	3	第2問と第5問で生徒が探究する場面設定がなされ、第2問では地域調査において、生徒が気づきから問いを立て、探究する過程を重視する工夫がみられた。第5問では、設問間のつながりを重視し、より探究的な学習過程を意識した出題の工夫を期待したい。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	4	受験者に配慮した適切な表現や用語が用いられており、疑義が生じやすい箇所も見受けられず、全体を通じて適切である。
(7)難易度	3	受験者にとって初見の資料が多く、資料の意味や特徴をとらえるのに時間を要したと思われる設問もみられ、平均点も例年より低く、難易度はやや高かった。学習量に比して正解が得にくい問題、高得点を取りにくい状況の改善を期待したい。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりがみられ、全体的に識別性が適切に機能していたと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	問題全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、各観点ともに工夫され、バランスのよい出題である。学習指導要領「地理探究」大項目C「現代世界におけるこれからの日本の国土像」に対応した出題の在り方に一層の工夫を期待したい。

科目名 (出題範囲名)	「地理総合」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	3	地球的課題、地域調査、自然災害と防災、生活文化など、偏りなくバランスの良い出題であるが、地域調査や生活文化の問題では、個別の知識に関して、やや発展的な学習が求められる問題もみられた。
(3)題材	4	地理の授業で扱われるオーソドックスな題材や資料だけでなく、初見の資料も多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	4	特に第2問では、生徒が自ら地域調査を進める場面設定がなされており、問1で着目した視点を基に、その後の設問が展開され、工夫がみられる。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	3	受験者に配慮した適切な表現や用語が用いられており、判読しやすい明瞭な資料や図版が多くみられるものの、見開きで示される情報量が多い設問もあり、その示し方には一層の工夫が期待される。
(7)難易度	4	資料から読み取った情報を基に、知識・技能、地理的な見方・考え方を働かせて考察、分析する設問が多く、難易度のバランスも適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりがみられ、識別性が適切に機能していたと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などについて、問い方、難易度等、各観点ともに工夫されており、バランスのよい出題となっている。

科目名 (出題範囲名)	『歴史総合，日本史探究』
----------------	--------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	各時代の特色とその変遷，対外的な関係等について，諸資料に基づいて総合的に問う視点が総じて明確であった。各設問からは，知識に偏ることなく，諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	3	出題分野に関しては，政治史，社会史，外交史，経済史，文化史等分野のバランスが図られており，「歴史総合」に関しては，現代史を視野に入れた出題もあったことで，従来の「日本史B」に比べ，近代史の出題が少ない印象を受けた。
(3)題材	4	歴史的事象についての考察を深める資料として，写真や文字史料，統計資料などが工夫されて用いられていた。取り上げた題材も多様であり，特に様々な地域の題材を多様に活用していた。思考力・判断力・表現力等を効果的に問う設問が出題されたと思われる。
(4)問題の場面設定	4	大半の大問で学習指導要領が求める高校生の主体的な学習活動に沿った場面が設定されていた。昨年度までの共通テストで測られていた資質・能力を問いながら，より正確な思考力・判断力・表現力等を求めている。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	3	解答に際して特に難解と感じる表現・用語は見られなかった。資料も多くが現代語にされていることで，例年に比べて扱いやすかったと思われる。一方，抽象度の高い設問などでは，より受験者に理解しやすい用語や表現の工夫が求められる部分もあったと思われる。
(7)難易度	4	総じて適正であったと言える。歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば，資料も扱いやすいため，難易度の極端に高いものではなく，解答は十分に可能であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	大きな部分において偏りは感じられず，おおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	『歴史総合，日本史探究』という形での初めての出題であり，高等学校の授業方法の示唆を多分に含む内容であった。日本史・世界史といった分野にかかわらず，広い歴史的視野での学びを深める必要性を感じる。今後も多面的・多角的に問う良質な問題を期待したい。

科目名 (出題範囲名)	『歴史総合，世界史探究』
----------------	--------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能を問う問題と思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスが取れており，歴史的事象の概念的理解を基に事象相互の関連を考察させる問題が多く，共通テストの目的に沿った出題となっていた。
(2)出題範囲	3	出題範囲はおおむね適切であったが，現代史からの出題がやや少なかった。出題時代のバランスに改善の余地がある。
(3)題材	4	多くの受験者にとって初見と思われる，文字資料，地図，グラフ，表など様々な資料が用いられ工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	4	大問4問中3問が世界史探究の授業での生徒の発表準備や発表場面を想定しており，1問が資料活用がテーマであった。実際の授業にも活用できる場面設定であった。
(5)問題構成	4	設問数や配点，設問形式等は適切であった。複数資料の正確な読み取りや思考を伴う問題が増加しているため，受験者にこれ以上の負担がかからないよう配慮をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	資料や問題文，選択肢を含め，文章表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の理念に基づき，概念的理解を求める良問が多く，『歴史総合，世界史探究』としての初の共通テストにふさわしい問題であった。

科目名 (出題範囲名)	「歴史総合」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	概念的理解を伴う知識や資料読み取りの技能，思考力・判断力・表現力等を評価する問題が，バランスよく配置されていた。
(2)出題範囲	3	学習指導要領に照らし合わせ出題されている範囲はおおむね適当だった。「国際秩序の変化や大衆化と私たち」「グローバル化と私たち」に対し，「近代化と私たち」からの出題数が多く，バランスに改善の余地がある。
(3)題材	4	多くの受験者にとって，初見と思われる資料が多く，資料の読み解きなど，効果的に資料が用いられていた。
(4)問題の場面設定	4	大問ごとに主題が設定され，中間で授業の場面が設定されており，授業における学びが強く意識された出題であった。大問に一貫性があり，工夫されていた。
(5)問題構成	4	設問数や配点，設問形式は適切であった。読み解きや思考力・判断力・表現力等を評価する出題が増加している分，受験者に過度に負荷がかかることのないよう，配慮を引き続きお願いしたい。
(6)表現・用語	3	選択肢においてやや難しい表現が見られたが，資料や問題文，選択肢を含め，文章の表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の趣旨を反映した内容であり，入学者選抜の問題として適切であった。科目の特性を踏まえ，資料の読み解きや思考，概念的理解に力点が置かれ，細かすぎる事実に知識を求めていることが評価できる。

科目名 (出題範囲名)	『旧世界史A』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の理解の質を問うたり思考力を発揮して解いたりする問題がおおむねバランスよく配置されていた。
(2)出題範囲	4	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき出題していた。
(3)題材	4	現代の諸課題を歴史的観点から考察させるような題材となっていた。
(4)問題の場面設定	3	会話文が用いられ、歴史の授業場面の設定がみられた。
(5)問題構成	4	会話文や資料などから問いを構成し、歴史的類推により思考の幅を拡張する工夫がみられた。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	世界史Aの授業場面を設定し、現代の諸課題とのつながりがみられる題材を用いて、生徒の思考を広げるような問題で構成されていた。

科目名 (出題範囲名)	『旧世界史B』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題が多かった。
(2)出題範囲	3	東南アジア史の出題がみられなかったが、おおむね適切であった。
(3)題材	4	世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を考察させるような題材となっていた。
(4)問題の場面設定	4	会話文やメモ、スライドなど実際の世界史Bの授業場面を設定していた。
(5)問題構成	4	会話文や資料などから問いを構成し、歴史的類推により思考の幅を拡張する工夫がみられた。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(7)難易度	4	難易度は適正であった。
(8)得点のちらばり	3	おおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	世界史Bの授業場面を設定し、多様な資料を用いて、受験者の理解や思考を測定しようとする問題の意図が明確に示されていた。

科目名 (出題範囲名)	『旧日本史A』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	特定の分野・領域への偏りがなく、学習指導要領に示された範囲から出題されていた。
(3)題材	3	題材に工夫がなされていたが、文字資料が多く、絵画や写真などの資料を活用する設問にもう少し多様性があったのもよかった。
(4)問題の場面設定	4	高校生の具体的な学習活動に沿った形式は、受験者にとって必然性のある場面設定であり、適切である。
(5)問題構成	4	設問数や配点、小問の出題形式のバランス等、問題構成は適切であった。
(6)表現・用語	4	史資料の提示を含めて明確な文章表現であり、必要な箇所には脚注が付され、正確な判断ができるよう配慮されていた。
(7)難易度	4	基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、適正であった。
(8)得点のちらばり	4	極端な奇問・難問はなく、全体的な得点のちらばりは適正であったと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった。

科目名 (出題範囲名)	『旧日本史B』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	諸資料に基づいて総合的な理解を問うねらいが明確であった。各設問からは、知識・理解に偏ることなく、諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	3	時代・分野・領域のいずれにおいても極端に大きな偏りはなく、おおむね適切であったが、大問によって分野の偏りがやや見られた。
(3)題材	3	歴史的事象についての考察を深める資料として、やや文字史料が多く用いられたが、石材や絵画、統計資料など、身近で多様な史資料が工夫されて用いられていた。思考力・判断力・表現力等を効果的に問う設問が出題された。
(4)問題の場面設定	4	大半の大問で学習指導要領が求める高校生の主体的な学習活動に沿った場面が設定されていた。地域の歴史素材や生活史的な資料を題材とした出題もあり、身近な歴史に基づく出題の工夫は評価したい。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	4	解答に際して特に難解と感じる表現・用語は見られなかった。文字史料は、現代語訳や書き下し文に改められるなどの工夫があり、基本的な知識を前提として注釈等も活用すれば十分読解できた。
(7)難易度	3	総じて適正であったと言える。頻出の史資料に加え、初見の史資料など多数引用された。歴史的事象の意味や意義に関する理解があれば、難易度の高いものはなく、正誤の判断がしやすかったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	著しい偏りは感じられず、おおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校の日本史の内容を、身近な歴史素材を活用し総合的に解答することができる問題が多数見られた。用語の暗記だけではなく、日本史を多面的に考察するねらいが明確な作問であった。

科目名 (出題範囲名)	『旧地理A』
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	4	地理的技能とその活用、日本の自然環境と防災、世界の生活文化、南アジア地域、地球環境の変化と生物多様性との関連、地域調査が出題され、学習指導要領からバランスよく問われている。
(3)題材	4	教科書では取り上げられていない題材も多く見られたが、地理の授業で扱われる内容や身に付けた知識・技能を基に、地理的な見方・考え方を働かせて、考察したり推察したりする問題が多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	4	第4問と第5問で生徒が探究する場面設定がなされ、第4問では、地球環境の変化が生物に及ぼす影響について、生徒が多面的・多角的に探究する過程が示された。第5問では、実践的な調査を踏まえつつ、生徒の探究過程が順を追って示され、現地調査を行う重要性を感じることでできる場面設定となっている。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	3	受験者に配慮した適切な表現や用語が用いられているが、資料・写真の判読が難しいものもあり、その示し方にはより一層の工夫が必要である。
(7)難易度	3	全体としては適切であり、資料から読み取った情報を基に、知識や技能、地理的な見方・考え方を働かせて考察できる問題が多いが、地理Aの学習成果を評価する試験としては発展的な内容が問われている問題も複数あり、難易度の高い問題も散見された。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりが見られ、全体的に識別性が適切に機能していたと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、難易度等、各観点ともに工夫され、バランスのよい出題となっている。

科目名 (出題範囲名)	『旧地理B』
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	4	自然と人間生活とのかかわり、資源と産業、人口と都市・村落、寒冷地域と高山地域、地域調査が出題され、学習指導要領からバランスよく問われている。
(3)題材	4	教科書では取り上げられていない題材が大半であったが、地理Bの学習を通して身に付けた知識・技能や見方・考え方を働かせて考察したり推察したりする問題が多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	4	第1問では世界の島の自然と人間生活のかかわりについて、高校生が多様な資料を基に多面的に探究する過程が示された。第5問では、実践的な調査を踏まえつつ、生徒の探究過程が順を追って示され、現地調査を行う重要性を感じることもできる場面設定となっている。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	3	受験者に配慮した適切な表現や用語が活用されているが、写真の判読が難しいものがあり、明瞭な資料の提示とそこから読み取ることのできる情報に対応した設問に期待したい。
(7)難易度	4	資料から読み取った情報を基に、知識や技能、地理的な見方・考え方を働かせて考察できる問題が多い。また極端に正答率の低い設問もなく、難易度も適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりが見られ、全体的に識別性が適切に機能していたと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、難易度等、各観点ともに工夫され、バランスのよい出題となっている。

科目名 (出題範囲名)	『公共，倫理』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	3	出題範囲はおおむね適切であった。教科書等で扱いの少ない学習事項が一部含まれていた点は改善を求めたい。また、第5問はバイアスについての出題が続くなど、一部偏りがみられた。
(3)題材	4	新課程を反映し、現実社会の諸課題を分野横断的に考察する内容で、題材は適切であった。資料は分量に配慮し、科目に固有の知識や思考力を活かして解く内容となるよう望みたい。
(4)問題の場面設定	4	資料を活用したり、生徒同士や、大学院生、先生との対話を通して、現代的な課題について協働して探究的に学習する場面が設定されており、新科目の理念に照らして適切であった。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式はおおむね適切であった。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語はおおむね適切であった。ただし、教科書等の一般的な説明に即していない箇所が一部あった。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体的な難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適切であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に適切な試験であった。今後も、対話を通じて異なる視点に触れ、思索を深めていく場面設定を通じて、既習した知識や概念を活用したり、日々の授業で身につけた知識や思考力を適切に判定できる問題となることを期待したい。

科目名 (出題範囲名)	『公共、政治・経済』
----------------	------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や知識・理解をもとに資料を読み取って思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題もあり、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	探究活動という場面設定の特性上、一部偏りは見られるものの、全体で見れば学習内容全般にわたっており、学習指導要領の範囲内から出題されていることから、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題されている資料等は特定の教科書に偏っておらず適切である。図表やメモ、記事などさまざまな資料が使用されているだけでなく、課題探究計画の概要が示されており、授業改善の参考になる。
(4)問題の場面設定	4	探究活動などさまざまな場面設定は、授業改善につながるメッセージ性が感じられるが、大問の扉と各設問との関連性は希薄であり、大問の扉がない場合、各設問での負担が増えることは否めない。
(5)問題構成	3	思考力や判断力等を問う出題の意図からはやむを得ないことと考えられるが、問題文や資料等の分量が多いため、文章量は最小限に留め、思考する時間を確保することが課題である。
(6)表現・用語	4	受験者に配慮した適切な表現であり解答の際に、混乱を招くようなものはなかったが、誤答の用語に安易なものもあり、探究活動等で必要となる身に付けておくべき基本的な用語の使用を期待したい。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題を中心に、平易な問題から難易度の高い問題がバランスよく出題されており、全体の問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切であり、選抜に資するものである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。高等学校の授業で活用できる題材が多く、図表や資料の内容も多彩で、思考力・判断力・表現力等を問う問題は授業改善へのメッセージになるものと感じられる。

科目名 (出題範囲名)	「公共」
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題のねらい	4	新課程「公共」の目標に示された「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を働かせながら、現実社会の諸課題の解決のために必要とされる知識・技能、思考力を問う問題がバランスよく出題されている。
(2) 出題範囲	4	特定の分野に偏らず、学習内容全般にわたり幅広く出題されており、さらに新しく内容に加えられた「公共的空間の形成」や「合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論すること」についても触れた出題になっている。
(3) 題材	4	特定の分野に偏らず、学習内容全般にわたり幅広く出題されている。題材に用いられた資料は今日的課題に関わるものが多く、工夫が見られた。
(4) 問題の場面設定	4	どの問題も、授業における探究活動、卒業生の講演など、具体的な高校生の学習活動の場面を設定して会話文を用いるなど、主体的に探究に取り組む学習を重視する新課程の趣旨が生かされている。
(5) 問題構成	3	知識を問う問題、資料を読み取り活用する問題、思考を問う問題のバランスがとれている。資料の数値を読み取る問題については、そのメッセージ性が受験者により伝わるような工夫がほしい。
(6) 表現・用語	4	文章表現、用語については、誤解を招くようなあいまいな表現はなく、文章表現、設問表現とも、妥当なものであった。
(7) 難易度	4	はじめての共通テスト科目であり、小問ごとに見ると難易度の差が見られたが、全体的には適正である。
(8) 得点のちらばり	4	概ね正規分布に近い散らばりであり、共通テストとしての妥当性を満たしている。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	新課程「公共」の最初の共通テストであり、質問の意図が明確に伝わるような配慮や工夫がなされており、受験者だけでなく多くの関係者の注目を集める問題としては評価できるものである。また、課題探究活動を場面設定に取り入れたことで、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を意識したものになっており、新課程が目指す方向性を示すメッセージとなっている。

科目名 (出題範囲名)	『旧現代社会』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識や資料読み取りの技能を問うものと、既習した知識をもとに考察させる問題がバランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内で出題されている。特定の分野に偏ることなく出題されており、「現代社会」の教科書で学習していれば対応できる範囲からの出題になっている。出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等については、特定の教科書に偏っておらず、適切である。また基本的な知識を扱ったもの、理論を扱ったもの、受験者が関心をもちそうな資料を取り上げたものなど、多様な題材をもとに工夫された構成となっている。
(4)問題の場面設定	4	授業での発表や授業後に取ったメモ、先生に相談する生徒、国連職員の講演会、生徒による課題探究等、生徒の主体的な学習の過程を意識した場面設定がなされている。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等はおおむね適切であった。文章や資料の分量は抑えられており小問が見開きページで収まっているため、受験者は問題に取り組みやすかったと思われる。
(6)表現・用語	4	全体をとおして受験者が理解しやすい表現で問題が構成されている。用語についても、特に難しいものはなく、「現代社会」の学習をしている受験者にとって適切な用語で表現されている。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題が多く、全体として難易度は適正であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりに著しい偏りはなく、適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	知識、技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるよう工夫された問題で構成されている。また、強いメッセージが込められた問題がいくつも見られた。全体として取り組みやすい良問が多く、全体として適切な試験であった。

科目名 (出題範囲名)	『旧倫理』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の詳細な理解を問う出題がやや多かったが、知識理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含めて、おおむねバランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	3	出題範囲はおおむね適切であったが、教科書等で扱いの少ない学習事項も一部見られた。用語の説明を加えるなどの配慮を求めたい。
(3)題材	3	出題された資料は特定の教科書等に偏るものでなく、興味深い内容であった。ただし、その数は多く、一つの資料における文章量も過多であった。肢文の長さも含めて、受験生の負担を考慮されたい。
(4)問題の場面設定	4	生徒同士や大学院生、先生との対話を通して、快楽・食・労働・地域社会について調べ、まとめるという探究的な学習場面が設定されていた。科目の理念に照らしておおむね適切であった。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式はおおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語はおおむね適切であった。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体的な難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適切であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に適切な試験であった。知識理解と思考力を併せて問う資料問題も出題され、出題範囲も特定分野に偏ることなくバランスがよかった。全体的な分量については、新課程でも配慮を求めたい。

科目名 (出題範囲名)	『旧政治・経済』
----------------	----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題のみならず知識・技能を基に資料を読み解く問題も多く見られ、全体としてバランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	すべてが学習指導要領からの出題になっている。受験生にとって初見と思われる用語なども、会話文や資料で理解できるつくりとなっており、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題されている内容はおおむね基本的なものが多く、特定の教科書に偏っておらず適切であるが、受験生が読み慣れない文章もみられ、読み取りには時間を要したと思われる。
(4)問題の場面設定	3	生徒の学習活動に沿った内容の場面設定が多く見られ、課題探究計画の概要も示されているが、大問の扉は単元の項目立てにとどまってお見通しは立つが各設問との関連が希薄な点が課題である。
(5)問題構成	4	問題構成はおおむね適切である。難解な資料や説明文があったり、選択肢の数も多めなものがあったりしたことから、解答には時間を要したと思われる。
(6)表現・用語	4	全体を通して適切な表現であり、文章表現や用語の使用において混乱を招くようなものはなかった。
(7)難易度	4	小問ごとに難易度の差はあるものの、標準的な設問が多く適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点の散らばりは概ね適正であり、選抜試験に資するものである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	選抜試験として適切である。知識・理解の確実な習得が求められる問題や、思考力・判断力・表現力等を問う工夫された問題もみられ、高等学校における学習内容を識別できるものであった。

科目名 (出題範囲名)	『旧倫理, 旧政治・経済』
----------------	---------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題のみならず知識・技能を基に資料を読み解く問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題も見られ、全体としてバランスよく出題されている。
(2) 出題範囲	4	すべてが学習指導要領からの出題になっている。受験生にとって初見と思われる用語なども、会話文や資料で理解できるつくりとなっており、出題範囲は適切である。「倫理」については、教科書等で扱いの少ない学習事項も一部見られた。
(3) 題材	3	出題されている内容はおおむね基本的なものが多く、特定の教科書に偏っておらず適切であるが、「倫理」については一部、設問に関わる資料や対話の文章量が過多であった。「政・経」では受験生が読み慣れない文章もみられ、読み取りには時間を要したと思われる。
(4) 問題の場面設定	3	生徒の学習活動に沿った内容の場面設定が多く見られ、課題探究計画の概要も示されているが、「政・経」では、大問の扉は単元の項目立てにとどまっており見通しは立つが各設問との関連が希薄な点が課題である。
(5) 問題構成	4	問題構成は、設問数、配点、設問形式のいずれもおおむね適切である。
(6) 表現・用語	4	全体を通して適切な表現であり、文章表現や用語の使用において混乱を招くようなものはなかった。
(7) 難易度	4	小問ごとに難易度の差はあるものの、標準的な設問が多く適正である。
(8) 得点のちらばり	4	得点の散らばりは概ね適正であり、選抜試験に資するものである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	選抜試験として適切である。知識・理解の確実な習得が求められる問題や、思考力・判断力・表現力等を問う工夫された問題もみられ、高等学校における学習内容を識別できるものであった。

科目名 (出題範囲名)	『数学Ⅰ，数学Ⅱ』
----------------	-----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，解決過程を振り返り，得られた結果を意味付ける力も問うており，バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して，数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており，問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり，受験者が問題場面を理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく，使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており，適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの，育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり，全体としては，基本～標準的な難易度で構成されており，概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果，得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり，育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり，得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『数学Ⅰ』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付ける力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり、受験者が問題場면을理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点の散らばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『数学Ⅱ，数学B，数学C』
----------------	---------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理する力、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力や拡張・一般化する力、数学のよさを認識する力などが問われており、バランスのとれた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理し問題解決につなげる過程、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け概念を広げたり深めたりする過程、会話文などから問題を解決するための見通しを立てる過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されている。日常生活や社会の事象に関わる出題は第2問と第5問の2題であった。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現はなく、問題解決の方針も分かりやすく丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランスよく出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧数学Ⅰ・旧数学Ⅱ』
----------------	-------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付ける力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり、受験者が問題場면을理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点の散らばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧数学Ⅰ』
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，解決過程を振り返り，得られた結果を意味付ける力も問うており，バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して，数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており，問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり，受験者が問題場면을理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく，使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており，適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの，育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり，全体としては，基本～標準的な難易度で構成されており，概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果，得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり，育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり，得点の散らばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧数学Ⅱ・旧数学B』
----------------	-------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理する力、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力や拡張・一般化する力、数学のよさを認識する力などが問われており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理し問題解決につなげる過程、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け概念を広げたり深めたりする過程、会話文などから問題を解決するための見通しを立てる過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されている。日常生活や社会の事象に関わる出題は第2問と第5問の2題であった。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現はなく、問題解決の方針も分かりやすく丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランスよく出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧数学Ⅱ』
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理する力、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力や拡張・一般化する力、数学のよさを認識する力などが問われており、バランスのとれた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理し問題解決につなげる過程、得られた結果を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け概念を広げたり深めたりする過程、会話文などから問題を解決するための見通しを立てる過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されている。日常生活や社会の事象に関わる出題は第2問のみであった。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現はなく、問題解決の方針も分かりやすく丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランスよく出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧簿記・会計』
----------------	----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含め、バランスの良い出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており、特定の分野・領域に偏っておらず適切である。
(3)題材	4	資料等は、特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	4	生徒が先生と会話しながら簿記・会計の理解を深めていく様子は、簿記の学習過程において必然性のある形で出題されており、適切である。
(5)問題構成	3	基礎的内容の出題がやや多いが、バランスは保たれている。一方、読み取りに手間が掛かったり、解答時間に不足が生じるような傾向は見受けられなかった。設問数、配点、設問形式等試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書の一般的な表現を使用しており、適切である。
(7)難易度	4	平均点は昨年度よりも下がったが、難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは、おおむね正規分布に近い形を示しており、適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名 (出題範囲名)	『旧情報関係基礎』
----------------	-----------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	情報に関する見方や考え方を基に、基本的な知識の理解の質、思考力・判断力・表現力を発揮して解くバランスのとれた出題となっている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲において、基本的な内容からそれを活用する内容まで、特定の学科に偏らない出題がなされている。
(3)題材	4	出題されている資料等が特定の教科書に偏ることなく、高等学校で身に付けた知識や思考力を問うために適切な題材となっている。
(4)問題の場面設定	3	基本的な知識を用いて、身近な問題を解決する手順や方策などを考える場面が設定されており、適切である。ただし、第2問においては、数学的な問題解決の過程がやや多く、情報技術に関する内容からの場面設定に検討の余地がある。
(5)問題構成	4	職業教育を主とする専門学科で学びを進めてきた受験者にとって、必答問題2問、選択問題1問の設問数、設問形式等は適切である。
(6)表現・用語	4	文章の表現や用語の使い方は適切である。また、文章だけでなく図や表も示すことにより、問題文の内容を適切に理解できる配慮がなされている。
(7)難易度	4	解答に時間を要する問題も見られたが、選択問題である第3問と第4問における難易度の差も小さくなっており、受験者の資質・能力を測る上では適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点、標準偏差の値からも適切な分布である。また、出題範囲、難易度、受験者の実態からも適切である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の点を踏まえて、全体として高等学校における学習の達成度を判定する大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名 (出題範囲名)	「物理基礎」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められ、バランスの取れた出題であった。
(2)出題範囲	4	全ての領域から学習指導要領に基づいて適切な範囲で出題されていた。単元にばらつきはあるものの、問題数や試験時間を考慮するとよく工夫されていた。
(3)題材	4	日常的な題材や教科書でよく取り扱うような題材が多かった。初めて扱う実験についても、丁寧な問題文や図が与えられており、初見でも回答できるように工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	実験を通して探究の過程を意識した場面設定がなされていた。実験結果からの考察や与えられたデータ等から数値を処理する問題が設定されていた。
(5)問題構成	4	出題数や試験時間と難易度の関係、配点など適正であったと思われる。
(6)表現・用語	3	文章表現や用語について、全体的に分かりやすい表現で出題されていたが、一部の設問では問題文に適切な誘導があれば、受験者にとって解きやすい設問になったと考えられる。
(7)難易度	3	物理概念の理解を求められる設問が多く含まれており、基礎的な設問が中心であった。しかし、一部の設問には、物理基礎としては難易度が高いものも含まれていた。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定できる問題であり、「知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」という共通テスト問題作成方針のとおりであり、適切な問題であった。

科目名 (出題範囲名)	『物理』
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して考察することが求められる、バランスの取れた出題となっていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内からの出題であり、偏っていない。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	探究活動の場면을切り取った場面設定となっており、学習の過程を意識したものとして適切であった。第2問のレーザー光を用いた周期の測定においては、高精度な測定から赤道と極での重力加速度の違いを思考する場面につながるもので、目新しかった。
(5)問題構成	4	探究をテーマとした問題が2題出題され、各大問を通してバランス良く構成されていた。また、基本を問う問題から実験結果を活用する問題、思考力を問う問題など多角的な構成であった。
(6)表現・用語	3	全体的に適切で、分かりやすい表現で出題されていた。ただ、第3問における二つの波の合成波の式の読み取りにおいて、表現された式の意味を理解できなくても正答を得られる上、表現された問題文の流れに沿うことなく正答を導くこともできた。
(7)難易度	4	全体的に文章量や表・グラフが多く、読み取りに時間がかかると思われるが、読み取れば内容は平易なものが多く、平均点から考えても妥当な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題のねらいが明確で、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題であった。探究の過程を重視した出題構成は、高等学校の授業改善へ有効なメッセージになったと思われる。

科目名 (出題範囲名)	「化学基礎」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的な知識を問う問題と思考力等を問う問題がバランスよく出題されており、大学教育を受けるために必要な能力について把握することができる問題となっていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に示されている、「化学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の各項目からまんべんなく出題されていた。
(3)題材	4	第1問は小問集合形式で、第2問は空気に含まれる気体成分の発見と質量保存の法則をテーマとしていた。特に、第2問は化学史の内容を「化学基礎」の範囲で無理なく考えられる題材であった。
(4)問題の場面設定	4	身近な自然現象を題材としたり、化学反応の量的関係についてグラフを用いて考察したりするなど、化学の本質について問うことができるよう工夫されていた。
(5)問題構成	4	第1問は小問集合問題、第2問は一つの題材についての総合問題であった。小問数は12、解答数は19であった。
(6)表現・用語	4	全体として、分かりやすく、理解しやすい表現が用いられていた。受験者にとって初見と思われる題材については、丁寧なリード文やイメージしやすい図を用い、受験者の負担を配慮したものになっていた。
(7)難易度	4	「化学基礎」としての難易度は妥当であると考えられる。難易のバランスが取れており、幅広い学力層を識別できる良問が多かった。やや煩雑な計算を最後の問題として出題することについては検討いただきたい。
(8)得点のちらばり	4	受験者の得点のちらばりを見ると妥当であったと思われる。平均点は27.00点、標準偏差は9.41であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や題材は「化学基礎」の内容として妥当であると考えられた。化学をより身近に感じられ、基礎的な知識と思考力等をバランスよく問うことのできる工夫された問題の作成を今後もお願いしたい。

科目名 (出題範囲名)	『化学』
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	「大学教育を受けるために必要な能力について把握すること」という目的に対して、高等学校等の段階における知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う「作成方針」に沿った内容であった。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」，「物質の変化と平衡」，「無機物質の性質」，「有機化合物の性質」，「化学が果たす役割」から幅広く出題されており，学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	4	日常生活や社会と関連付けたものだけでなく，化学史や自然界での現象を題材とした問題も出題されるなど，受験者にとって「化学」をより身近に感じられる題材となっていた。
(4)問題の場面設定	3	丁寧なリード文で受験者がイメージしやすいよう工夫されている問題がほとんどであったが，古文より引用されたものや説明が長文にわたるものが散見された。
(5)問題構成	3	例年と同様に，第1問から第4問までは分野別の出題であり，第5問は総合的な問題であった。基礎的・基本的な知識・理解を問う問題だけでなく，思考力・判断力・表現力等を活用する問題など，受験者の幅広い学力を測定できる構成となっていた。その一方で，全ての問題に取り組むには時間が不足する構成でもあった。
(6)表現・用語	4	グラフの読み取りのしやすさ，有機化合物の構造式の大きさなど，受験者への配慮が見受けられた。概ね，教科書に記載のある表現や用語が使用されていた。
(7)難易度	2	昨年度と比較し，設定を理解するのに時間がかかったり，思考力や判断力等を要する問題が多かったりしたことから，難易度が高くなったと考えられる。受験者が十分に思考したうえで解答する時間を確保できるよう，検討していただきたい。
(8)得点のちらばり	3	平均点は45.34点（昨年度は54.77点），標準偏差は20.02（昨年度は20.95）であり，平均点は大幅に減少した。得点のばらつきは，受験者の学力に応じて上位層から下位層まで適切に分散していた。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	学習指導要領に準拠した「化学」の各分野から偏りなく出題されており，幅広い受験者の「化学」に関する学力を定量的に評価できる良問が多かった。しかし，試験時間に対して受験者の負担が大きい問題も多く見受けられた。

科目名 (出題範囲名)	「生物基礎」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解を問う問題だけでなく、知識を活用しながら科学的な視点で思考力、判断力を問う設問が作成されており、全体的にバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める三つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	教科書間の偏りはなく、バランスよく出題されていた。
(4)問題の場面設定	3	ほとんどの問題が、学校における学習の過程を意識した問題の設定がなされていたが、一部の問題については、正誤の判断に足る情報が不足しているものがあり、改善をお願いしたい。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式等はおおむね適正であり、部分点の設定もなされていた。仮説を検証するための適切な実験手順を考えるとといった設問においては、その検証の順番が大切になるため、配点の工夫をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適正であった。新しい表現として、波線部の記述がみられたが、そのメリットを活かすことができていた。
(7)難易度	4	問題全体を通して、難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、得点の散らばりは適正であったと考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体を通して、受験者の基礎的な学習の達成度を評価するための試験として適切であった。

科目名 (出題範囲名)	『生物』
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く実験考察問題を中心に、バランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に定める五つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	教科書間の偏りはおおむねなかったが、ある題材においては、一部の教科書でのみ取り上げられているものも見られた。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていたが、一部の問題については場面設定における情報が不足しており、解答に必要な考察をするのが難しい問題も見られた。
(5)問題構成	3	設問数、配点、設問形式等はおおむね適正であり、部分点の設定もなされていたが、冒頭の大問の難易度が最も高く、大問別正答率が最も低かった。学習指導要領の大項目の順番にとらわれず、受験者の解答のしやすさに配慮した問題構成をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適正であった。
(7)難易度	4	設問によってはやや難易度が高いものも見られたが、全体の難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の学力を適正に評価できる試験であった。

科目名 (出題範囲名)	「地学基礎」
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	共通テスト問題作成方針を踏まえ、基本事項の理解が問われる問題や思考力・判断力・表現力等が求められる出題となっており、バランスのとれた出題となっていた。
(2)出題範囲	3	出題内容や出題範囲については、ほぼ教科書に準じた内容から構成されており、学習指導要領に示された範囲からおおむね出題されていた。一部に「地学基礎」の範囲外である問題があった。
(3)題材	3	問題で扱った題材は、おおむね適切であった。幾つかの教科書には記載のない題材があった。
(4)問題の場面設定	4	地球環境や自然災害に目を向けるなど、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	4	選択肢数は増加したが、適切な範囲内であり、問題数、配点についても、おおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	全体として、受験者に分かりやすい表現が用いられており、理解しやすいもので、おおむね適切であった。
(7)難易度	4	一部に難易度の高い問題もあったが、全体としてのバランスは良く、おおむね適切であった。
(8)得点のちらばり	4	高得点を取る受験者ほど正答率が高くなるような問題が多く、得点のちらばりもおおむね適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	基本事項の理解を問う問題や、科学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題でおおむね構成されており、「地学基礎」の学習達成度を測るための適切な問題であったと考える。

科目名 (出題範囲名)	『地学』
----------------	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、基本事項の知識の理解を問う問題や思考力・判断力・表現力等が求められる問題が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から適切に出題されているが、「地球の大気と海洋」からの出題がやや多かった。
(3)題材	4	教科書は1冊しかない。よって取り扱いに差が見られなかった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察・実験、野外実習など、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	3	選択肢数が6択の問題が例年に比べ多く、8択の問題も1問見られたが、問題文の量や設問形式は適正であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書を基にしたもので適切であった。
(7)難易度	3	全体の難易度は適切であったが、設問によってはやや難易度が高いものも見られた。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地学」の学習到達度を測るため、知識の理解や思考力・判断力・表現力等を総合的に問う問題で構成されている。

科目名 (出題範囲名)	『英語（リーディング）』
----------------	--------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能の確実な習得と、それを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等をバランス良く測るよう工夫された出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校段階で学習する範囲の言語材料の知識で対応できる出題で、受験者への負荷は適正なレベルである。
(3)題材	4	日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取材されており、受験者の知的関心に合った適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程が意識されており、問題の場面設定は適切であった。
(5)問題構成	4	分量について昨年度から改善され、適正なレベルに調整された。設問も多様な形式がバランス良く配置され、受験者の力を総合的に測る構成であった。
(6)表現・用語	4	文章表現は学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じ、適切なものであった。
(7)難易度	4	様々な目的や場面、状況などに応じて、概要や要点を把握したり、必要とする情報を適切に読み取ったりする力を測るために、平易なものからやや難しいものまでバランス良く出題されている。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正で、幅広い受験者層を適切に識別できる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学教育の基礎力となる外国語の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を測るテストとして適正である。実社会でのコミュニケーションだけでなく教室での学習場面にも配慮がなされており、受験者の力を総合的に測り、高等学校教育への示唆を与えるテストとなっている。

科目名 (出題範囲名)	『英語（リスニング）』
----------------	-------------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて話し手の意図などを的確に理解する総合的な英語力を評価するという問題作成方針をよく踏まえ、知識を活用したり思考力・判断力・表現力等を発揮したりする問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校で学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」で学ぶ内容・範囲を網羅している。
(3)題材	4	特定の教科書内容に偏ることなく、日常の身近な話題から社会問題まで、幅広い分野の題材を扱っている。モノログ、二者や三者の対話、講義など、題材の場面設定にもバリエーションがある。第6問Bでは、対話の話者が最大3名となったのは、内容に集中することにつながり、評価できる。
(4)問題の場面設定	4	問いたい力を意識したコミュニケーションの場面設定に工夫があり、受験者への負荷についても配慮が見られる。
(5)問題構成	4	全体を通して、設問数、配点、設問形式等は適切である。
(6)表現・用語	4	使用される語彙・表現はバリエーションに富んでおり、問題の質を高めている。また、多様な話者による英語を採用している。
(7)難易度	4	易しい問題と、難しい問題とが混在しているが、総合的に見ると大学教育を受けるために、必要な能力について把握する上で標準的な難易度であり、適切であった。
(8)得点のちらばり	4	平均点はおおよそ6割で標準的であり得点の分布を見ても妥当であり、適切であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に音声は聞き取りやすく、実際のコミュニケーション場面が意識された日常的な話題や社会的な話題を聞き、話者の意図を聞き取る力を測るよう作られている。学習指導要領に沿った4技能5領域のバランスの良い言語活動や思考力・判断力・表現力等の向上を目指した指導の重要性を示している適切な問題である。

科目名 (出題範囲名)	『ドイツ語』
----------------	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	CEFR の範囲を意識した出題ながら、文法知識を問う出題が増加し意図した出題となっていないのではないかな。
(2)出題範囲	3	学習指導要領には「英語に準ずる」としか記載されておらず、明確な範囲は設定しづらいが、高等学校で3年程度継続して学んだ範囲としてはかなり範囲が広いと感じた。
(3)題材	4	高等学校用の教材は存在していないため一概には言えないが、特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がおおむねなされているが、一部高校生には想像しづらい場面の問題もあった。
(5)問題構成	3	文法、会話、長文読解などを含む構成であり、どこかに偏ることはないが、発音に関する出題もあつては良いのではないかなと思う。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語はおおむね適切であるが、過度に文法用語を避けることは望んでいない。
(7)難易度	3	3年程度継続して学習していれば、ある程度対応できるが、使用単語の難度が上がった。(複合語・文法を含む)
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	3年程度継続して学習していればある程度解答できるが、本当に理解度が測れているのか疑問に感じた。

科目名 (出題範囲名)	『フランス語』
----------------	---------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	識別力の高い問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等は適正であり，現代的な話題性に富む。
(4)問題の場面設定	4	受験者にとってなじみ深いものであり，適切である。
(5)問題構成	4	基礎から応用へと配列された試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	難解な表現・用語はなく，適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度はおおむね適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。

科目名 (出題範囲名)	『中国語』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	表やグラフ等の言語材料を複数組み合わせでバランス良く出題されている。会話や文章題の空欄補充等も細かい文法にこだわらず、思考力や総合的な判断力を問う問題となっており、おおむね適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に準じて行うものとする。とあり、明確な範囲は考えにくいですが、語句は主要辞書の重要語等を組み合わせで使っており、3年間で学ぶ範囲としておおむね適切な出題であった。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の分野に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	4	高校生にとって一般的な話題や身近な場面設定であり、適切である。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4問では複数の言語材料が提示されており、よくバランスがとれている。
(6)表現・用語	4	長文や選択肢も含め、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。受験者の特性を鑑みて今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりは、受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのは致し方ない。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学教育を受けるための基礎的な学習の達成度や思考力が測れる出題となっている。受験者や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な作問がなされている。

科目名 (出題範囲名)	『韓国語』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	2	第1問Aが思考力を問う問題になっていない。例年の指摘にもかかわらず改善されていない。
(2)出題範囲	3	適当である。
(3)題材	4	第1問を除いて、おおむね高校生が学習する上で適切な題材を扱っている。
(4)問題の場面設定	4	適当である。
(5)問題構成	2	第1問と第4問の改善が求められる。
(6)表現・用語	4	適当である。
(7)難易度	3	全体の難易度は適当である。ただし、第1問に難易度の高い出題がある。
(8)得点のちらばり	3	高等学校における学習者がどの程度受験しているか分かりづらいので判断できない。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問の改善を求める。

科目名 (出題範囲名)	『情報Ⅰ』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえた出題であり、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題がバランスよく出題された。
(2)出題範囲	4	単元にややばらつきはあるものの、全体としては幅広い分野・領域から出題されており、学習指導要領にもとづいた適切な範囲内の出題であった。
(3)題材	4	社会や身近な生活の中の題材が多く取り上げられており、教科書等で扱われていない初見の資料等においては適切な説明文や図等が付されるなど、十分な工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	社会や身近な生活の中の題材が多く設定されていた。また、探究活動における学習過程を通じた出題となっていた。受験者にとっては理解しやすい設定となっていた。
(5)問題構成	4	出題数や試験時間と難易度の関係、配点など適正であったと考えられる。「情報Ⅰ」での学習内容を幅広く出題し、学習の成果を適切に測ることができる構成となっていた。
(6)表現・用語	3	別紙により2箇所の問題訂正があり、受験者の負担になったと考えられる。また、一部でやや複雑な表現もみられたが、大半の問題では適切な用語により表現されていた。
(7)難易度	4	やや基礎的な設問が中心であったが、個々の知識を問うだけでなく、探究的な場面で思考力・判断力・表現力等を問う設問も多く、初回の試験としては概ね適切であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	平均点 69.26 点、標準偏差 16.09 であり、得点分布は概ね正規分布に従っており、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領において「情報Ⅰ」で育成すべき資質・能力を適切に測ることができる問題であった。また、共通テスト『情報Ⅰ』の問題作成方針に記載されていた通り、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題が多く含まれていた。

科目名 (出題範囲名)	『旧情報』
----------------	-------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に基づき、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が適切なバランスで出題された。
(2)出題範囲	3	学習指導要領の範囲内から概ね適切に出題されていたが、『情報Ⅰ』との共通問題であったプログラミング分野において、教科書外の内容が一部で見受けられた。
(3)題材	4	社会や身近な生活の中の題材が多く取り上げられており、教科書等で扱われていない初見の資料等においては適切な説明文や図等が付されるなど、十分な工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	社会や身近な生活の中の題材が多く設定されていた。また、探究活動における学習過程を通じた出題となっていた。いずれの場面も受験者にとって理解しやすい設定であったと考えられる。
(5)問題構成	4	出題数や試験時間と難易度の関係、配点など適正であったと考えられる。科目間の学習内容や選択問題の構成を配慮して、学習の成果を適切に測ることができる構成となっていた。
(6)表現・用語	3	別紙により1箇所の補足説明があり、受験者の負担になったと考えられる。大半の問題では図表を多く用いて問題の状況や条件などを丁寧に示しており、理解しやすい表現となっていた。
(7)難易度	4	基礎的な設問が中心であり平均点もやや高かったが、探究的な場面で思考力・判断力・表現力等を問う設問が充実しており、旧教育課程履修者等に配慮した試験としては概ね適切であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	平均点 72.82 点、標準偏差 14.43 であり、得点分布は概ね正規分布に従っており、得点の散らばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領において「社会と情報」及び「情報の科学」で育成すべき資質・能力を適切に測ることができる問題であった。また、共通テスト『旧情報』の問題作成方針に記載されていた通り、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題が多く含まれていた。